

## 9) 新潟県卵巣腫瘍登録成績

児玉 省二・金沢 浩二 (新潟大学)  
田中 憲一 (産科婦人科)

1983年から1989年までの7年間に登録された新潟県における卵巣腫瘍(中間群,悪性群)586例について検討した。症例の内訳は,中間群93例(15.9%),悪性群450例(76.8%),転移癌43例(7.3%)であった。中間群腫瘍の組織型は,ムチン性が最も多く,漿液性,腹膜偽粘液腫,顆粒膜細胞腫,未分化胚細胞腫,男化腫瘍,充実性奇形腫,カルチノイドなどであった。中間群進行期は,I期81.7%,II期2.1%,III期9.7%,IV期5.4%であった。腹膜偽粘液腫は,進行例が多かった。悪性腫瘍の組織型は,上皮性腫瘍411例のうち,漿液性が最も多く54.5%,ムチン性20.7%,類内膜癌10.0%,類中腎癌10.7%,未分化癌4.1%であった。非上皮性腫瘍39例は,胎児性癌,類皮嚢胞癌などが登録された。その進行期は,上皮性腫瘍がI期39.4%,II期14.1%,III期34.6%,IV期11.4%で,漿液性腫瘍と未分化癌は半数以上がIII,IV期の進行例であった。

## 10) 肺小細胞癌 LD 症例に対する化学療法(CDDP+Etoposide)と多分割照射同時併用療法の pilot study

堀 由夏・横山 晶 (新潟県立がんセン)  
木滑 孝一・栗田 雄三 (ター内科)  
斎藤 真理 (同 放射線科)

肺小細胞癌 LD 症例に長期生存を得るには,局所制御率の向上が必須である。我々は,切除不能のLD症例に対し化学療法と多分割照射同時併用療法のpilot studyを1989年10月より開始した。現在までに,70歳以下,PS=0-2までのLD初回治療5例が登録された。

化学療法は,CDDP 80mg/m<sup>2</sup> day1 と Etoposide 100mg/m<sup>2</sup> day1-3 の点滴静注を4週毎に4コース施行し,胸部照射は1コース目のday2より週5回,1回線量1.5Gyを1日2回照射し,3週で45Gy投与した。各コースともrG-CSF 2μg/kg s.cをday2より連日施行した。

結果:CR 1例,PR 4例で奏効率は100%であった。2例が脳に再発したが,3例は寛解期間1~6ヶ月で寛解継続中であり,全例生存中である。重篤な放射線肺臓炎,放射線食道炎は認めていない。

結論:本療法は安全に施行可能と考えられ,良好な治療成績が期待されるため更に症例を重ねて検討したい。

## 11) 肺癌でのラステットカプセルの使用経験

外山 譲二・伊藤 文弥 (頸南病院内科)  
対象18例,高齢,衰弱,家族の希望で強力多剤併用療法不能の者,及び化学療法後の維持療法として,平均70.1歳,小細胞癌7例,扁平上皮癌7例,腺癌4例,stage III 9例,stage IV 9例。投与方法はラステット 25mgカプセル連日投与(3例で50mg)。小細胞癌7例では,総投与日数は342日,314日など平均が198日で平均生存期間が約12ヶ月。維持療法として用いた1例は2年2ヶ月を経た現在生存中。ラステット 50mg 単独療法の1例は1年3ヶ月生存,うち1年1ヶ月は自宅で平穏な生活を送った。腫瘍効果はラスラットカプセル単独療法の5例のうち3例でPRを示した。扁平上皮癌の平均総投与日数は171日,平均生存期間は約10ヶ月。腺癌の平均総投与日数は66日と短く評価は困難。小細胞癌と扁平上皮癌では,Quality of Lifeの向上と生存期間の延長に有用であると思われた。副作用は軽度の脱毛と,食思不振が2例のみ,50mgカプセル251日連続投与例も含めて骨髄抑制は認めなかった。

## 12) 気管支動脈より抗癌剤大量注入療法の試み

土屋 俊晶・近藤 有好 (国立療養所西新潟  
病院内科)  
山本 和男・山口 明 (同 外科)

肺癌の化学療法は,CDDP・VP-16 VDSの登場で奏効率が上がったが,その効果の限界も見えてきた。

それを打破するために,化学療法と照射療法を同時に行う方法や,rh-GCSFの併用で薬剤投与量を増やすことが試みられている。しかし,顆粒球以外の骨髄障害や腎障害などで投与不能となり,治療効果も制約される。

腫瘍にだけdose escalationが計れる方法として,当院では非肺小細胞癌に対し,CDDP・MMC・VDSを直接気管支動脈より一般に末梢から入れる全量を注入している。

気管支動脈の血流は心拍出量の高々1%しかなく,気管支動脈注入は静注の100倍の薬剤を活性型で腫瘍に注入できる利点がある。

特に腫瘍が気管支分岐部に達する例などは,約2週間で呼吸苦も取れ患者に喜ばれている。

また肺野型肺癌でも血管新生の多い例では,著しい効果が認められたので,これまでの当院でのBAI療法の経験を合わせて報告する。